

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校の教育の特色であるデザイン及び芸術系列の専門性の進展をはかる教育を通して、真実を求め、勤労を尊び、美を愛する心を有する生徒の育成を目標とする。また、総合学科でありながらも、ものづくりの実践を通して変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体という「知・徳・体」三つバランスのとれた「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。

- 1 命の大切さを理解し違いを認め合い、お互いを尊重し合う心を育てる。
- 2 生徒一人ひとりが自己実現を図り、主体的に進路選択することをめざす。
- 3 学ぶ喜び、わかる喜び、達成感を味わわせ、生涯にわたって学び続ける態度を育成する。
- 4 生徒と教員が信頼関係を築き、個々の生徒に寄り添い、学校が心の居場所となるよう努める。

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化

- (1) 本校は小・中学校で不登校を経験している生徒が在籍している。そのため、社会的自立をめざす観点から、個々の生徒の実態に応じた学習支援に努め、個々の生徒の学力を把握したうえで「わかる授業」「魅力ある授業」を効果的に実践し、生徒が達成感を味わい、自尊感情を高められるよう指導を行う。
 - ア 生徒の興味・関心を高める教科・科目の設定を行い、生徒の「学ぼうとする意欲」を高め、基礎的・基本的な知識・技能・教養を定着させる。
 - イ 生徒支援の視点から、知識、意欲、適性、学習歴等の個別データ等を教職員全員が共有することで、きめ細かな指導を行うとともに、学校教育活動全般を通じ、生徒の「学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」を定着させる。
 - ウ 指導と評価の一体化の視点から、授業改善に努める。
 - エ 生徒の状況や地域の実態に応じて、適切な教育課程を編成するとともに特色ある教育活動を展開する。
 - ※ 授業アンケートにおいて、「授業は、わかりやすく楽しい」(R4:89%, R5:82%, R6:81%)の肯定的な回答80%以上を維持する。
 - ※ 生徒情報交換会は月2回を定例とし、加えて年2回の学年別授業担当者会議を開催する。(新規)
 - ※ 卒業率を令和9年度まで90%以上を維持する。(R4:89%, R5:96%, R6:96%)
- (2) 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実
 - ア 支援教育コーディネーターを中心に、障がいに対する理解を深め、早期に個々の生徒の困り感を感じ取り、必要な支援に結び付けていく。
 - イ 個別の支援計画・指導計画の充実を図り、将来に渡って繋いでいく教育をめざす。
 - ウ 必要に応じて、保健・医療・福祉等の関係機関との連携を図り、SCやSSW等を活用する。

2 豊かな心と健やかな身体の育成

- (1) 規律・規範のある学校環境をつくり、様々な活動を通して、豊かな心と自律心をはぐくむ取組みを推進する。
 - ア 生徒の自主性を育てる取組みを実践するとともに、地域への奉仕活動ができる学校をめざす。
 - イ 多様な学校行事や系統的な教育プログラムを通じ、優れた生徒集団づくりを行う。
 - ※ 学校アンケートにおいて「入学させて良かった」とする保護者の肯定的な回答90%以上を維持する。(R4:100%, R5:98%, R6:98%)
加えて、「入学して満足している」とする生徒の肯定的な回答90%以上を維持する。(R4:89%, R5:89%, R6:91%)
 - ウ いじめの防止、中途退学・不登校の未然防止を推進する。
 - エ 情報モラルの育成、学びに向かう環境づくりの充実を推進する。
 - オ 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。
- (2) 生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり
 - ア 学校全体として健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒および教職員の健康増進と安全確保を推進する。
 - イ 全教職員が一致した協力体制を構築し、問題事象等には迅速で適切な対応を図る。
 - ウ 教育相談体制の充実と生徒情報の共有を図る。
 - エ 家庭、地域との連携を推進し、情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。
 - オ 学校の教育活動中の事故防止等に取り組む。

3 将来をみすえた自主性・自立性の育成、キャリア教育の推進

- ア 3か年を見通した進路指導計画に基づき、在校生の就労率や就労体験率を向上させる。
- ※ 卒業時の進路決定率を令和9年度まで年次向上させ、100%(就職は就労率)をめざす。(R4:85%, R5:79%, R6:81%)
- イ 教員のキャリアカウンセリング力を向上させるための研修や外部人材の活用を推進する。
- ウ 最終学年までに一人ひとりの生徒が自分の適性を知り、将来の進路を真摯に見据えた行動や態度を自発的に取れるよう取り組む。

4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり

(1) 校長のリーダーシップによる学校経営の確立

- ア すべての教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場環境づくりに努め、教職員の組織力の向上をめざす。
- イ 危機管理事案に対して、適切に対応できる組織となっているか、常に見直しを図る。
- ウ 自校の教育活動が体系的かつ継続的なものとなるよう、学校を取り巻く課題等の検討を図る。

(2) 学び続ける教員集団の形成

- ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修の実施や教員の自主研修を奨励し、人材の育成を図る。
- イ 現場のニーズに即した校内研修を計画的に行うことにより、教員力の向上を図る。

(3) 働き方改革への取組み

- ア 時間外勤務時間の削減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図る。
- ※ 教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させる。(R4 13時間52分, R5 14時間16分, R6 16時間24分)
- イ 定時退庁の促進、一斉閉庁日の活用ならびに有効な休暇取得の促進を図る。
- ウ 教職員の業務の負担軽減化・分散化を図り、健康増進・ストレス軽減に向け、働きやすい職場環境を実現する。
- エ 各種ハラスメント防止に対する意識の啓発を図る。
- オ 会議資料のデータ化、ICT活用による効率的な運営を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>前年度から肯定率が向上または100%を維持した項目は、生徒評価 17/21、保護者評価 14/20、教職員評価 16/27 と、概ね高い評価を得ている。肯定率75%を下回った項目については、以下の通り要因を分析し改善を図る。</p> <p>【生徒】 「学校へ行くのが楽しい」は74%（6%増）と改善傾向にあるが、入学満足度91%との乖離が課題である。行事等の非日常の楽しさに加え、日々の授業における達成感や「居場所感」の更なる醸成が必要である。</p> <p>【保護者】 「HPをよく見る」51%（1%減）や「授業参観や学校行事に参加したことがある」70%（13%減）の低下は、連絡手段のデジタル化に伴う情報の受け取り方の変化が背景にあると考える。一方で、「入学させて良かった」100%（2%増）等の満足度は極めて高く、本校への強い信頼が示されていると捉えている。今後は、デジタルを活用した効果的な情報発信を継続しつつ、保護者参加型の活動や生徒会主導の行事再構築を通し、来校参加型の「新たな価値」を創出していきたい。</p> <p>【教職員】 「教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている」57%（18%増）は大幅に向上したものの、目標値（60%）には届かなかった。準備負担に対する教育効果の共有が課題である。今後は、地域学校協働活動等の外部連携により教職員の負担軽減を図り、生徒の変容を共有する機会を設けることで、活動の意義を組織的に再確認する。また、「学校運営が組織的に運営されている」71%（12%減）や「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」71%（3%減）の低下は、教育活動の高度化による「多忙感」や「役割の固定化」が背景にあると推測される。教員定数が減少する中で、一人当たりの校務分掌および行事運営の負担が増大していることから、現状の教育活動を維持しつつ、教職員の意欲を保つためには、業務の精選と組織的なフォローアップ体制の再構築が急務である。次年度より分掌再編と業務の均整化に着手し、持続可能な学校運営体制の確立を推進していく。</p>	<p>第1回：令和7年 6月13日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の運用と保守体制について 生徒用1人1台端末の不具合状況や対処法について関心が示された。教員用端末のシステム変更に伴う課題も含め、円滑なICT活用のための環境整備の重要性が共有された。 組織運営および人材育成の成果に対する評価 学校評価において「ミドルリーダーの育成」や「若手教員の学校運営への参画意識」が肯定率100%を達成したことについて、組織づくりの好事例として高い評価が得られた。 奉仕的体験学習の充実と教職員の意識向上について 奉仕活動やボランティア活動の教職員評価が大幅に向上した点に注目が集まった。一方で目標値に届かなかった要因について質疑があり、教育効果の検証とさらなる取り組みの活性化を期待する意見が出された。 <p>第2回：令和7年10月30日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教務課 欠課が増えた生徒への早期フォロー体制や、教員間でのきめ細かな情報共有など、生徒に寄り添った学習支援の取り組みについて説明し、理解を得た。また、授業見学週間の期間設定の工夫や、全定間連携、遠隔授業のプレ実施など、教員の多忙感に配慮しつつ授業改善を推進する姿勢について、委員より前向きな関心が示された。また、授業見学を経て、委員より「本校の特色ある教育活動は非常に価値が高く、今後も大切に継承し継続してほしい」との力強い激励と評価をいただいた。 生活指導課 担任を中心とした丁寧な見守りにより、指導件数が減少傾向にあることや、相談しやすい環境が整っている現状を報告し、学校が「生徒の安心できる居場所」となっている点について評価を得た。「生活指導課 NEWS」の発行や生徒会主導の季節行事についても、適切な事前指導のもとで生徒の自主性を尊重している点に注目が集まった。 進路指導課 最新の進路状況や、現在指導中の生徒の粘り強い取り組みについて報告を行った。委員からは、昨今の総合型選抜への対応や、経済的背景（奨学金等）による進学希望者の増加傾向について質疑があり、進路動向に対する認識を共有した。また、進学後の継続状況や就職試験におけるトラブルの有無についても関心が示され、卒業後も見据えた継続的な支援の重要性が確認された。 <p>第3回：令和8年 1月31日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業の導入と対面教育の意義について 不登校傾向にある生徒への遠隔授業の活用について、学びの継続という利点がある一方で、「教室へ登校する意義」を損なう懸念について意見が交わされた。運用マニュアルの作成にあたっては、ICT活用と対面指導のバランスを十分に考慮するよう要望があった。 人権教育の継承と情報モラルの向上について 学校教育自己診断の結果を受け、本校の伝統である「きめ細やかな人権教育と支援体制」が継続されている点について高い評価が得られた。併せて、専門高校の特性を鑑み、著作権の保護を含めた情報モラル教育のさらなる充実を期待する声が寄せられた。 外部リソースを活用した図書館運営の検討について 教職員不足により図書館の開館維持が課題となっている現状に対し、地域ボランティアや後援会との連携を視野に入れた運営体制の検討について提案があった。学校・家庭・地域が一体となり、生徒の読書環境(居場所)を確保する重要性が共有された。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	(1) 教務 「わかる授業」「魅力ある授業」をめざした授業及び主体的な学びの態度となるよう努める。	(1) ア 学習進度の違いを補えるよう、教材を工夫する。生徒個々の学力に応じて「わかる授業」「魅力ある授業」を工夫・展開する。ノートの整理ができている（授業プリントの記入ができている）こと等を重視し、生徒が各自の力を発揮しつつ授業に取り組めるよう、各教科で教材を精選・工夫する。 イ 定期考査や小テストによって単元ごとの個々の理解度を確認し、振り返りを行う授業を展開する。定時制総合学科に見合う、より洗練された授業を展開する。 ウ 生徒の発達段階に応じた学習を推進する。	(1) ア 授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」肯定率85%以上維持。[89%] ・学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」肯定率75%以上維持。[76%] イ 授業アンケート「授業を受けて知識や技能が身についたと感じている」肯定率80%維持。[90%] ウ 進級・卒業率80%以上維持。[81%] ・不登校生徒に対する遠隔授業の実施に向け、内規とマニュアルを作成し、指導体制を構築する。	(1) ア 授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」肯定率91%(○) 「わかる授業」を行うために、教材の精選・工夫を行っているという肯定率も95%と高く、学校全体で取り組むことができている。 ・学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」肯定率78%(○) 加配を活用し、少人数指導を行えたことも結果につながったと考える。 イ 授業アンケート「授業を受けて知識や技能が身についたと感じている」肯定率91%(○) ウ 進級・卒業率85%(○) ・不登校生徒に対する遠隔授業の実施に向けて、内規とマニュアルを作成。座学においては遠隔授業プレ実施も行い、指導体制を構築した。(○)

府立工芸高等学校 定時制の課程

	<p>(2) 支援教育 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進</p> <p>ア 個々の生徒の困り感の早期把握</p> <p>イ 個別の支援計画・指導計画の充実</p> <p>ウ 保健・福祉・医療等関係機関との連携、SC、SSWの活用</p>	<p>(2)</p> <p>ア 新入生に対して出身校連携を行い、全教職員で情報を共有し、登校状況（欠日時数、行動観察、相談内容）と照らし合わせ、困り感の早期把握に努める。</p> <p>イ 本校、個別の教育支援計画・個別の指導計画様式、活用の浸透に向け、「個別の教育支援計画・個別の指導計画作成マニュアル」を活用し、各計画の記載内容の充実を図る。</p> <p>ウ 支援教育相談主担や支援 Co. を中核として、スクールカウンセラーコーディネーター（SCCo）、スクールソーシャルワーカーコーディネーター（SSWCo）との連携を図る。支援教育サポート校の活用などを通じて、学校全体の支援教育力向上を図る。</p>	<p>(2)</p> <p>ア 合格者の意向を踏まえ出身校と連携をとる。 [新規]</p> <p>イ 年2回の学年別授業担当者会議を活用し、記載内容の充実と見直しを行う。</p> <p>ウ 各種 Co を含めた会議を月1回行う。 ・学校教育自己診断「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。」肯定率 75%以上維持。 [79%] ・学校教育自己診断「子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。」肯定率 85%以上維持。[87%]</p>	<p>(2)</p> <p>ア 出身校等連携 100%実施。(○) 合格者の意向を踏まえた上で出身校をはじめ、関係機関等との連携を取ることができた。</p> <p>イ 学年別授業担当者会議を活用して新規作成や見直しを行い、記載内容の充実を図った。(○) また、個別の支援としていたルビ打ちを小学校高学年以上の漢字を対象に授業のユニバーサルデザインとして取り入れ、全体で統一することとした。</p> <p>ウ 各種 Co を含めた会議を 16 回実施(○) ・学校教育自己診断「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。」肯定率 76% (○) ・保護者による SC 相談の利用や、『つながる連絡』による保護者連携の効果もあり、学校教育自己診断「子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。」肯定率 95% (◎)</p>
<p>2 豊かな心と健やかな身体の育成</p>	<p>(1) 生活指導 豊かな心と自律心、協調性を育む</p> <p>ア 生徒の自主性の涵養と社会への奉仕活動の実践</p> <p>イ 様々な学校行事や教育活動を通じた協調性を育む集団づくり</p> <p>ウ いじめの防止と中途退学の防止</p> <p>エ 情報モラルの育成と学びに向かう環境づくり</p> <p>オ 自他ともに尊重し、互いを認め合える人権教育の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア スポーツ大会の種目企画・運営、七夕祭りなどの準備や広報、登校時の挨拶運動など生徒会が中心となる教育活動を進める。</p> <p>イ 選挙管理委員や生徒会執行部が取り組む生徒会選挙や文化祭などの行事の進行・運営を学校全体で協力できるような体制づくりに協力する。また、部活動を充実させ、生徒が部活動に取り組む重要性を認識し、達成感や充実感を得ることをめざす。</p> <p>ウ いじめアンケートを年3回実施し、当該生徒には丁寧な聞き取りを心掛け、学校全体で生徒情報を共有する。</p> <p>エ 情報社会で安全に生活するための危機管理の方法やセキュリティの知識を育成し、自身の健康への意識と社会的モラルを考える取組みとして、年1回、専門家を招いた講習会を開催する。</p> <p>オ 人権学習として外部講師による教員向け、生徒向けの講演会を各1回以上実施する。 ・教員生徒共に人権に関する知識や、人権を擁護・促進するための技術および態度を養う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「奉仕等の体験学習が活発に行われている。」肯定率 60%以上。[39%]</p> <p>イ 学校教育自己診断「行事（スポーツ大会、文化祭など）は、楽しく行えるよう工夫されている。」肯定率 85%以上維持。[85%]</p> <p>ウ 学校教育自己診断「学校の生徒指導の方針に、共感できる。」肯定率 90%以上維持。[90%]</p> <p>エ 生徒アンケート「講習内容が理解できた」肯定率 90%以上維持。[96%]</p> <p>オ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率 90%以上維持。[92%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「奉仕等の体験学習が活発に行われている。」肯定率 57% (◎) 万博関連行事に加え、産業教育フェアでは定時制から販売部門の参加1校とクラブ有志が活躍した。</p> <p>イ 学校教育自己診断「行事は、楽しく行えるよう工夫されている。」肯定率 94% (◎) 生徒会の主導によって、初企画となるハロウィンやクリスマスイベントも実施された。</p> <p>ウ 学校教育自己診断「学校の生徒指導の方針に、共感できる。」肯定率 95% (◎) いじめ防止の観点から、コミュニケーション能力を高めようと講演会も開催し、生徒たちに好評であった。</p> <p>エ 生徒アンケート「講習内容が理解できた」肯定率 94% (○)</p> <p>オ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率 94% (○) 外部講師による講演会を2回(9/25 いじめ防止・コミュニケーション力育成講座、10/22 依存症からのリカバリー)、LHR での人権教育 (6/6 子どもの人権、12/19 同和問題、12/19 拉致問題、1/23 オンラインカジノ) に取り組んだ。</p>

府立工芸高等学校 定時制の課程

	<p>(2)生徒の個々に応じた適切な指導と支援体制の充実</p> <p>ア 安全教育・交通安全教育の推進</p> <p>イ 問題事象への迅速で適切な対応</p> <p>ウ 教育相談体制の充実と生徒情報の共有</p> <p>エ 家庭、地域との連携と情報発信による開かれた学校づくり</p> <p>オ 保健指導や美化意識の向上 自己の健康、体力の保持増進に対する生徒意識の向上及び美化意識の向上</p>	<p>(2)</p> <p>ア 自転車交通安全講習を開催し、安全管理能力やトラブル回避・対処能力の向上に繋げる。</p> <p>イ 小規模校の特性を生かし、全教職員が全生徒の情報を共有し、迅速で適切な対応ができるように常に備える。 ・常に最新の生徒情報を得るために職員会議で定例化した生徒情報交換会を継続する。</p> <p>ウ 生徒が相談しやすい生活指導課づくりを心掛け、生徒とのコミュニケーションの深化を図り、問題行動の未然防止につなげる。 ・教育相談委員会を毎月開催し、学校全体の教育相談体制の在り方の検討、生徒の教育課題の分析と対応、実際の教育相談を行い、学校全体の教育相談対応力向上に努める。</p> <p>エ 本校の定時制教育についてIPやブログ等を活用し情報発信を推進し、開かれた学校づくりをめざす。 ・学校HPの更新とブログの発信を適宜行う。</p> <p>オ 生徒の自己の健康に関する意識向上のために外部講師による講演会を実施する。 ・日々の感染症対策や清掃徹底日を設ける。</p>	<p>(2)</p> <p>ア 生徒アンケート「講習会の内容が十分に理解できた」肯定率 90%以上維持。[96%]</p> <p>イ 学校教育自己診断「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」肯定率 80%以上維持。[87%]</p> <p>ウ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」肯定率 90%以上維持。[92%]</p> <p>エ 学校HPのブログ発信回数年間 60 回以上。 [59 回] ・学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のHP等が活用されている。」肯定率 80%以上維持。[81%] ・学校教育自己診断「学校のHPをよく見る。」肯定率 55%以上。 [52%]</p> <p>オ 健康に関する講演会を年 3 回以上実施する。 ・月 1 回(8・3月を除く)の清掃徹底日を継続し、校外清掃にも取り組む。</p>	<p>(2)</p> <p>ア 生徒アンケート「講習会の内容が十分に理解できた」肯定率 100% (◎) 4 月当初の実施とし、自転車通学者に対して申請許可条件にヘルメット着用を義務付けることができた。</p> <p>イ 学校教育自己診断「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」肯定率 81% (○) ・職員会議で定例化した生徒情報交換会を継続するとともに、週 2 回の連絡会にて情報を更新する等、生徒情報の共有に努めた。</p> <p>ウ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」肯定率 94% (○) ・支援教育相談委員会と改称し、構成員も改め体制を整えた。</p> <p>エ 学校HPのブログ発信回数年間 72 回 (○) 初めて生徒による投稿を行った。 ・学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のHP等が活用されている。」肯定率 95% (○) 2 学期からは『つながる連絡』を導入し、欠席連絡や保護者配付文書の共有が進んだ。 ・学校教育自己診断「学校のHPをよく見る。」肯定率 51% (△)</p> <p>オ 健康に関する講演会(7/16 薬物乱用防止教室、7/17 歯科健康講座、10/2 がん教育講演会、12/18 性に関する教育講演会)を年 4 回実施 (○) ・登校時から感染症対策を継続することはもちろん、清掃徹底日を設け美化意識の向上に努め、校外清掃にも取り組んだ。(○)</p>
<p>3 将来をみすえた自主性・自立性の育成</p>	<p>(1)進路 キャリア教育の推進</p> <p>ア 進路指導体制の構築</p>	<p>(1)</p> <p>ア HRや産業社会と人間等を活用し、1 年次より計画的にキャリア教育を実施するとともに、アルバイトの推奨等も通じて社会参加意識と勤労観を育む。 進路指導課・学年団・SSW 等で連携を行い、卒業予定者の個別指導を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 卒業予定者のうち学校斡旋による就職希望者の就職内定率 80%以上。[77%] 進学希望者の進学率 80%以上。[86%] ・卒業予定者の進路指導室(教室や図書室等も含む)の利用回数平均 15 回以上とする。[18 回] ・学校教育自己診断「この学校では、生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。」肯定的率 80%以上維持。[83%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 卒業予定者のうち学校斡旋による就職希望者の就職内定率 92% (○) 進学希望者の進学率 100% (○) 個別指導を徹底した結果、龍谷大学・近畿大学への合格実績に繋がった。 ・卒業予定者の進路指導室の利用回数平均 20.2 回 (○) 目標を上回ったものの、図書室の開館回数は予定数を下回り、次年度の継続に向けて課題が残る。 ・学校教育自己診断「この学校では、生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。」肯定的率 81% (○)</p>

府立工芸高等学校 定時制の課程

	イ 教員のキャリア カウンセリング力の 向上	イ 外部団体の講師を活用し、進路指導や生徒 支援に関する教員研修を年1回以上実施 する。	イ 進路指導・生徒支援に関 する研修の実施回数が 1回以上。[1回・4回] ・学校教育自己診断「この 学校では、カウンセリング マインドを取り入れ た生徒指導を行っている。」肯定率90%以上維持。 [91%]	イ 進路指導・生徒支援に関する研修の実施回数は 就労支援に関する講演1回、SC・SSWによる研修 を4回実施(○) 特にSCの研修では、経験年 数の少ない教員や担任に活用してもらえる内容 とし、実践力の向上につなげた。 ・学校教育自己診断「この学校では、カウンセリ ングマインドを取り入れた生徒指導を行ってい る。」肯定率91%(○)
4 力 と 熱 意 を 備 え た 教 員 と 学 校 組 織 づ く り	(1)校長のリーダー シップによる学校 経営の確立 ア すべての教職員 が相互に資質を高 め合う同僚性の高 い職場環境づくりに 勤め、教職員の 組織力の向上をめ ざす。 イ 危機管理事案に 対して、適切に対 応できる組織とな っているか、常に 見直しを図る。 ウ 自校の教育活動 が体系的かつ継続 的なものとなるよ う、学校を取り巻 く課題等の検討を 図る。 (2)学び続ける教員 集団の形成 ア 教職経験の少な い教員を対象と した校内研修な どによる人材育 成 イ 校内研修の計画 的な実施 (3)働き方改革に向 けた取り組み ア 時間外勤務の縮 減 イ 定時退庁の促進 及び有効な休暇 取得の促進	(1) ア 運営委員会が学校運営の中心となり校内の諸 課題について検討や立案、調整の場とする。 職員会議などの場において、組織の位置づけ についての周知を図り、組織的な運営の重要 性の認識を高める。 イ 各分掌や学年、委員会などの意見を組織間で 迅速に情報共有を図り、効果的な会議の運営 を図る。 ウ 将来計画委員会で、今後の本校の方向性を検 討するとともにミドルリーダーの育成と教 職経験の少ない教員の学校運営への参画意 識の醸成を図る。 (2) ア 教職経験の少ない教員対象の校内研修の充実 を図る。 ・各種研修対象者に有志を加えた授業力向上チ ームを作成する。 ・全日制と連携した授業見学を実施する。 イ 企画委員会、運営委員会、将来検討委員会な どを通して研修の精選や学校のニーズに合う 研修の計画を行う。 ア 学校部活動方針(休養日等)の遵守および、 前項一斉退庁日の遵守を推進する。 ・月ごとの時間外勤務状況を労働安全衛生委員 会で提示し問題点を確認する。 イ 時間外勤務の多い教職員に対し、必要に応じ た指導や助言を行うとともに、月1回の産業 医の訪問時に個別の面談を実施する。	(1) ア 学校教育自己診断「学校 運営が組織的に運営さ れている。」肯定率80% 以上維持。[83%] イ 交通安全に関する対応 マニュアルの新規作成。 ・学校教育自己診断「いじ め(疑いを含む)が起 こった際の体制が整っ ており、迅速に対応す ることができている。」肯定 率85%以上。[83%] ウ 学校教育自己診断「学校 の教育活動について、教 職員で常に話し合っ ている。」肯定率100%維持。 [100%] (2) ア 学校教育自己診断「経験 の少ない教員を学校全 体で育成する体制が整 っている。」肯定率60% 以上維持。[61%] イ 学校教育自己診断「校内 研修について、計画的 に研修が実施されてい る。」「校内研修は教育実 践に役立つような内容 となっている。」の肯定 率いずれも85%以上維持。 [87%・87%] ア 教職員の平均時間外勤 務時間を前年度より 5%削減をめざす。 [16時間24分] イ 分掌等の業務を見直し、 定時退庁の促進を図る。 年次休暇取得日を15日 以上。[15日]	(1) ア 学校教育自己診断「学校運営が組織的に運営さ れている。」肯定率71%(△) 将来構想委員会を中心に今後を見据えた組織改 革の検討を進め、組織運営の重要性について共 通理解を図った。しかし、定数減による量的負担 が肯定率を押し下げる要因となった。この結果 を重く受け止め、次年度に向けた業務精選を加速 させ、同僚性を高め合える職場環境の再構築 を図りたい。 イ 交通安全に関する対応マニュアルとして、内規 を充実させた。(○) ・学校教育自己診断「いじめが起こった際の体制 が整っており、迅速に対応することができている。」肯定率91%(◎) いじめアンケート後の聞き取りや対応を委員会 として組織的に行った。 ウ 学校教育自己診断「学校の教育活動について、 教職員で常に話し合っている。」肯定率95%(△) 数値としては下がったが、考査に関する見直し や、今後の広報活動について検討する機会とな った。 (2) ア 学校教育自己診断「経験の少ない教員を学校全 体で育成する体制が整っている。」肯定率81% (◎)また、チームの取組みに授業観察週間や遠 隔授業プレ実施により「他の先生が授業を見学 に来ることがある」肯定率が4%増加した。 イ 学校教育自己診断「校内研修について、計画的 に研修が実施されている。」肯定率91%(○) 「校内研修は教育実践に役立つような内容とな っている。」肯定率91%(○) ア 教職員の平均時間外在校等時間は18時間(△) 一斉退庁日やゆとりの日に対する意識は向上し ているが、教員定数減分の業務量が負荷となり 目標に届かなかった。 イ 年次休暇取得日は17日(△)定時制の課程にお いては、年休取得をしやすい年末に転入考査が 入ることや1日の振休を取得しづらいことが年 次休暇取得の妨げとなっている。

府立工芸高等学校 定時制の課程

ウ	働きやすい職場環境づくり	ウ	業務の分散化を図り、健康増進・ストレス解消に向け、働きやすい職場環境を実現する。	ウ	学校教育自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」肯定率81% (○) ストレスチェックによる総合健康リスクは 89 と職場の支援度が高く働きやすい職場環境を維持できているが、量的負担は大きく、軽減に向け取り組む必要がある。
エ	ハラスメント防止に対する意識の啓発	エ	各種ハラスメントについて責任のある行動を求める。	エ	学校教育自己診断「この職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い」肯定率76% (△)
オ	会議資料のデータ化、ICT 活用による効率的な運営を図る	オ	グループウェア等を活用した校務運営による効率化を図る。 ・校務 PC を用いた会議の運用。 ・個人情報管理のためのルール作成と周知徹底。	オ	校務 PC を用いた職員会議等の実施に加え、会議室から職員室で実施出来るよう環境も整備した。(○) 学校教育自己診断「コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている」肯定率92%(○)
		ウ	学校教育自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」肯定率80%以上。 [78%]		
		エ	学校教育自己診断「この職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い」肯定率80%以上維持。 [83%]		
		オ	校務 PC を用いた職員会議等の実施。 学校教育自己診断「コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている」肯定率90%以上維持 [91%]		